



【議会活動】3期目の4年間、社会課題の解決に向けて一般質問をして参りました。

●児童の交通安全確保について

大津市で園児の列に車が突っ込んだ事例を挙げ、危険な通学路の点検、改善を提案。

行政、学校、地域、警察が一体となり危険な交差点の見直しに着手。

●自治協議会との共創について

地域に任せっきりにするのではなく、会計の明瞭化など行政として支援すべきと提案。

自治協議会と行政との定期的な話し合いを開始。地域コミュニティ活性化条例の制定に繋がる。

●イノシシ対策について

増加するイノシシ被害に対して、猟友会と農家が連携した捕獲活動の在り方や捕獲後の処理方法について提案。

熊本県の先進事例から学ぶなど、被害を広げないための新たな施策を検討。

●殺処分ゼロを目指すための動物愛護管理センターとボランティアの共働について

不当な殺処分をなくすため、殺処分判定基準の見直しとボランティアとの連携強化を提案。

殺処分判定基準の見直しに着手。ボランティアとも定期的に話し合いの場を設け、環境の改善へ。

●ICT教育の推進について

持ち帰りを想定したタブレットの軽量化は急務。民間活用による適正なプログラミング教育の導入を提案。

現在のリース切り替え時に軽量のタブレットに変更予定。プログラミング教育の新たな展開が決定。

●虐待防止に向けた取り組みについて

急増する虐待事案に対して、児童相談窓口の充実、産後ケア、産後ヘルパー事業の拡充を提案。

委託する事業者とのヒアリングを実施。実態に合った支援内容の見直しに着手。

●循環型社会の構築について

家庭から出る生ごみを堆肥にする、ダンボールコンポストの普及促進に力をいれるべきと提案。

公民館など公的施設による堆肥の受け入れ場所を実現。

●子どもの外遊び推進について

生きる力をはぐくむ外遊びは子どもの発育に重要。公園でプレイパークを開催する際の支援を提案。

行政の支援、中村学園短期大学との連携により、公園にて6回のプレイパークを実施。

●医療的ケア児・者への支援について

特別支援学校へ通う医療的ケアが必要な児童を、通学バスに乗せることができるように体制の見直しを要望。療育センターと民間の児童発達支援事業所との併用を提案。

民間と提携した大型タクシーによる通学を検討。

●アートネクストについて

地域を活用したアートのまちづくりは重要。若手アーティストが世界に羽ばたけるよう、アートスタートアップにも力をいれるべきと提案。

六本松を起点にアーティストカフェと連携。アートをテーマにした新たなまちづくりがスタート。

●アートを活かした観光ツーリズムについて

インバウンドに対応するため、美術館といった市有施設のキャッシュレス整備、まちなかアートの提案。

インバウンドへの意識を高め、順次キャッシュレスに対応。

●受動喫煙対策について

受動喫煙やタバコのポイ捨てを防ぐため、屋外喫煙所の整備をすべきと提案。

警固公園内の喫煙場所を遊具から離して再整備。長浜公園に民間企業による新たな屋外喫煙所を設置。

●農福連携について

障がいのある人はイキイキと働き、農家は担い手不足解消となるよう、農業と福祉の連携強化を提案。

農家と福祉事業所のマッチングを強化。より積極的な展開が始まる。

●乳幼児における発達障がい児への支援について

最長3ヶ月待ちとなっているあいあいセンターの初診待ちの解消を要望。療育センターと民間の児童発達支援事業所との併用を提案。

民間の児童発達支援事業所との併用を、試験的に実施することが決定。

●生活保護施策における職員の働き方改革について

ケースワーカーの業務負担が大きく現場は疲弊。女性職員が一人で調査に出向くなど危険であり改善を要望。

ケースワーカーの増員や業務内容の改善、DX化を検討。

●保護猫活動への支援について

地域で認められた地域猫活動だけでなく、個人で保護猫活動ボランティアをしている方々への支援を提案。

保護猫活動をしている方々と行政との話し合いにより、具体的な支援を開始。

●魅力ある植物園について

壊れたままのトイレや施設の改修、使われていないエリアの再整備をすべきと提案。

トイレ、施設の改修に着手。一人一花運動の拠点として新たな施設の建設が決定。

●パーソナルモビリティについて

増加する自転車に対応するため、自転車道の整備やシェアサイクルのポート増設を提案。

シェアサイクルのポートについて、中央区役所は増設、博多区役所は新たに設置することが決定。

●中学校部活動支援について

経験のないスポーツを指導することは教員にとって大きな負担であり、安全面からも課題がある。適正な指導のために、部活動支援員の増員や民間委託を検討すべきと提案。

部活動指導員A、Bの増員が決定。民間委託は他都市の動きを見ながら検討。

●伝統工芸品産業の支援について

博多織やはかた人形といった伝統工芸品産業を守るために、NFTや他業種とのコラボなど、新たな取り組み支援をすべきと提案。

新たな取り組みに向けて、組合と民間企業のタイアップや若手勉強会など新たな展開を実施。

